

—学 会 録 事—

1. 日本藻類学会第10回大会

昭和61年3月30日・31日の両日、筑波大学・生物農林学系A棟において第10回大会を開催した。大会会長は福島博氏（東女体大）で、参加者は146人であった。講演は58の一般講演のほか米国ブラウン大学の Annette W. Coleman 博士、同じく米国カリフォルニア大学の Paul C. Silva 博士による特別講演があった。

大会第一日目、Silva 博士の講演終了後、同会場において総会を開催し、引き続き筑波大学第二学群食堂で約2時間にわたって懇親会を開催した。懇親会は南雲保氏（日本歯科大）の司会、元会長西澤一俊氏の乾杯の音頭で始まり、盛会裡に終了した。参加者は96名であった。

大会の商品展示室では東邦大学吉崎誠氏らの作成したコンピューターゲーム「海藻名前当てクイズ」なども展示され、好評であった。東邦大学の教官・学生諸氏にはこのほかにも大会運営にあたって種々のご協力を頂いた。厚くお礼申し上げる。

懇親会参加者

赤塚伊佐武、鯨坂哲朗、新井朱美、新井章吾、新崎盛敏、有賀祐勝、池原宏二、石川依久子、石代俊則、出井雅彦、井上 勲、市村輝宜、居平昌士、巖佐耕三、浦野浩二、榎本幸人、恵良田真由美、小沢淳子、大谷修司、大野正夫、大葉英雄、岡崎恵視、奥田一雄、笠井文絵、加崎英男、加藤季夫、香村真徳、川井浩史、川嶋昭二、喜田和四郎、熊野 茂、黒田充恵、小亀一弘、後藤 弘、小林和行、小林艶子、小林秀明、小林弘、Annette W. Coleman、今野敏徳、斉藤捷一、嵯峨直恒、佐野 修、佐藤恵美、佐藤祐司、Paul C. Silva、須田彰一郎、瀬戸良三、高橋京子、高橋永治、田中志穂子、田中次郎、千原光雄、寺本賢一郎、寺脇利信、徳田欣之、徳田 広、中島 泰、長島秀行、長田敬五、中道聡美、中村利家、南雲 保、西澤一俊、野崎久義、能登谷正浩、鳩貝太郎、速見 剛、原 成光、原 慶明、半田信司、肥塚利江、日野修次、福島 博、藤田大介、藤田隆夫、藤田雄二、堀 輝三、前川行幸、松山恵二、真山茂樹、右田清治、宮地和幸、持田和男、本村泰三、山岸高旺、山田家正、山本真規子、横浜康継、吉崎 誠、吉田忠生、米村好朗、Richardo J. Haroun、若菜 勇、渡辺 信(富山大)、渡辺 信(国立公害研)、渡辺真之

2. 評議員会・編集委員会

第10回大会の前日、3月29日に筑波大学・生物農林学系A棟において、編集委員会（15：00～16：00）および評議会（16：30～18：30）を開催し、昭和61年度総会に提出する報告事項・議題等の審議を行った。議題については総会の項を参照されたい。

評議員会出席者：千原光雄会長、有賀祐勝、市村輝宜、巖佐耕三、岩崎英雄、榎本幸人、大野正夫、喜田和四郎、小林 弘、谷口和也、堀 輝三、右田清治、山田家正、山岸高旺、吉田忠生の各評議員および井上 勲、加藤季夫各幹事。

編集委員会出席者：小林 弘編集委員長、有賀祐勝、市村輝宜、堀 輝三の各編集実行委員、巖佐耕三、岩崎英雄、右田清治、吉田忠生の各編集委員、千原光雄会長および岡崎恵視、井上 勲、加藤季夫各幹事。

3. 昭和61年度総会

昭和61年3月30日、筑波大学・生物農林学系A棟において、大会1日目の講演終了後、総会を開催した。千原会長の挨拶に続いて、喜田和四郎氏(三重大)を議長に選出して議事に入った。

I. 報告事項

1. 庶務関係

(1) 会員状況(61年2月現在)：名誉会員3名、普通会員518名、学生会員71名、団体会員42名、賛助会員13名、外国会員87名、購読・寄贈・交換143件。(2) 昭和60年度文部省科学研究費刊行助成金「研究成果刊行費」は110万円で、責任頁は296頁である。なお、昭和61年度分として185万8千円の助成金の申請を行い責任頁は300頁である。(3) 日本学会事務センターに会員業務を委託した。委託料は61万8千円である。(4) 日本学術会議第13期会員候補者の学会推薦について、持ち回り評議員会での選挙結果に従って、千原光雄氏を推薦した。なお、植物科学分野の学術会議会員には今堀宏三氏が就任した。(5) 昭和60年度の国際生物学賞授賞者の学会推薦について持ち回り評議員会で検討した結果、学会としての推薦は行わないことにした。

2. 会計関係

(1) 昭和61年度の会費納入率は2月末日現在で普通会員52%、学生会員65%である。(2) 昭和60年度一般会計と同山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告は昭和61年2月10日、猪川倫好(筑波大)、渡辺真

之（国立科博）の両会計監事により適正であると承認された。

3. 編集関係

- (1) 昭和60年度に発行した第33巻1～4号は、総頁数348頁、掲載論文数31編、短報6編、広告頁12である。
- (2) 昭和61年度第34巻1号は、掲載論文8編、第10回大会講演要旨を含め67頁で発行した。同巻2号以降に掲載予定の論文は審査中のものを含めて13編である。

4. その他

- (1) 第12回国際海藻会議について有賀祐勝氏（東水大）より説明があった。
- (2) 会則の趣旨に沿って日本藻類学会主催の淡水藻の分類・同定のワークショップを、山岸高旺（日大）、高橋永治（神戸大）、渡辺真之（国立科博）、南雲保（日歯大）を講師として大会終了後筑波大学で開催
- (3) 日本藻類学会昭和60年度秋季シンポジウムを植物学会大会前日の昭和60年10月2日午後新潟市で開催。

II. 審議事項

1. 昭和60年度一般会計決算報告および同監査報告は表-1のとおり承認された。 2. 昭和60年度山田幸

男博士記念事業基金特別会計の決算報告および監査報告は表-2のとおり承認された。 3. 昭和61年度一般会計予算案は表-3のように可決承認された。 4. 日本学会事務センターとの契約更新に伴い、昭和61年から昭和62年にかけて約10%の値上りが見込まれているが、このことを含めて同センターに続けて業務を委託することが承認された。 5. 山田基金による事業について、ワーキンググループの答申に従って将来山田賞を設ける方向であるが、事業を円滑に実施運営するにはなお資金が不足であり、今後できるだけ基金の充足を図るよう努力することが決められた。 6. 学会誌「藻類」の投稿規定を次のように改訂することが了承された。投稿論文はオリジナルの他にコピーを2部つけることとする。論文の図版は写真の場合は印刷の原寸大とし、カメラで複写したコピーを2部添付すること、線画の大きさは特別の場合を除きA4サイズを上限とする。 7. 従来東京と周辺地区を中心に行ってきた大会を、東京周辺地区1～複数回と地方との交互開催にすることが望ましいとの結論が得られた。

8. 昭和61・62年度事業計画として次の事項が決めら

表-1 昭和60年度 一般会計決算報告 (60.1.1～60.12.31)

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
会 費	4,126,203	印 刷 費	5,378,616
普通 会 員	3,088,500	(印刷 代	4,683,741)
学 生 会 員	313,500	別 刷 代	694,875)
外 国 会 員	322,603	編 集 費	299,935
団 体 会 員	201,600	(論文 審査料	38,000)
賛 助 会 員	200,000	英文 校閲料	80,000)
販 売	616,050	編集 補助費	47,165)
(定期 購 読	440,400)	通信 連絡費	134,770)
バック ナンバー	175,650)	会誌 発送費	237,030
別 刷 代	765,450	庶 務 費	511,750
超 過 頁 負 担 金	912,000	(事務 用品費	16,510)
広 告 代	155,000	会 議 費	49,550)
利 子	5,760	通信 ・ 印刷 費	144,820)
プ ロ グ ラ ム 代	16,500	事務 整理 補助	24,000)
雑 収 入	122,154	諸 雑 費	77,070)
刊 行 助 成 金	1,100,000	幹 事 旅 費 補助	19,800)
		幹 事 手 当	180,000)
		学 会 セ ン タ ー 業 務 委 託 費	618,860
		第 9 回 大 会 補 助	100,000
小 計	7,819,117	小 計	7,146,191
前 年 度 繰 越 金	620,520	次 年 度 繰 越 金	1,293,446
合 計	8,439,637	合 計	8,439,637

貸借対照表

60.12.31

借方 (円)	貸方 (円)
普通預金 (常陽銀行) 1,103,752	借入金 55,310
普通預金 (常陽銀行) 603,426	未払金 1,402,771
郵便振替 60,000	前受会費 55,000
小口現金 203,604	前期繰越金 620,520
未収金 823,695	当期繰越金 672,926
仮払い金 12,050	次期繰越金 1,293,446
合計 2,806,527	合計 2,806,527

昭和61年2月10日

日本藻類学会 会長 千原光雄 ㊟

日本藻類学会 会計幹事 加藤季夫 ㊟

本会計決算報告は適正であることを認める。

昭和61年2月10日

日本藻類学会 会計監事 猪川倫好 ㊟

日本藻類学会 会計監事 渡辺真之 ㊟

表-2 昭和60年度 山田幸男博士記念事業基金特別会計決算報告 (60.1.1~60.12.31) 日本藻類学会

収入の部 (円)	支出の部 (円)
山田追悼号 (2冊) 11,000	
学会出版物売上金	
コンプ論文集 (1冊) 700	
日米セミナー (1冊) 4,000	
寄付 (1件) 100,000	
利子 10,179	0
小計 125,879	小計 0
前年度繰越金 1,226,776	次年度繰越金 1,352,655
合計 1,352,655	合計 1,352,655

貸借対照表

60.12.31

借方 (円)	貸方 (円)
普通預金 (常陽銀行) 1,341,655	前期繰越金 1,226,776
未収金 11,000	当期繰越金 125,879
	次期繰越金 1,352,655
合計 1,352,655	合計 1,352,655

昭和61年2月10日

日本藻類学会 会長 千原光雄 ㊟

日本藻類学会 会計幹事 加藤季夫 ㊟

本会計決算報告は適正であることを認める。

昭和61年2月10日

日本藻類学会 会計監事 猪川倫好 ㊟

日本藻類学会 会計監事 渡辺真之 ㊟

れた。1) 来年度は会長および評議員の交代の年にあたるので、本年8月末から9月初旬にかけて選挙を行い、秋季シンポジウム開催時までには新会長と評議員を決定する。2) 本年度の秋季シンポジウムは鹿児島大学で開かれる日本植物学会第51回大会前日の10月6日に鹿児島大学の野沢治治氏を世話人として鹿児島市で開催する。3) 来年度の日本藻類学会第11回大会は梅

崎勇氏を世話人として京都大学で開催する。4) 国際生物学賞授賞者の学会推薦については、会員から特に推薦したい旨の申し出がない限り行わない。9. 第4回国際藻類学会議の日本開催について打診があったが、国際植物学会議と開催時期が近接しているため見送ることになった。

表-3 昭和61年度 一般会計予算案 日本藻類学会

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	4,531,400	印刷費	4,905,760
普通会員	3,262,000	印刷代	4,205,760
学生会員	320,000	別刷代	700,000
外国会員	427,000	編集費	350,000
団体会員	302,400	論文審査料	40,000
賛助会員	220,000	英文校閲料	100,000
販売	940,400	編集補助費	60,000
定期購読	770,400	通信連絡費	150,000
バックナンバー	170,000	会誌発送費	250,000
別刷代	770,000	庶務費	915,000
超過頁負担金	240,000	事務用品費	30,000
広告代	200,000	会議費	50,000
利子	15,000	通信・印刷費	310,000
プログラム代	20,000	事務整理補助費	60,000
雑収入	30,000	諸雑費	175,000
刊行助成金	1,100,000	幹事旅費補助	110,000
		幹事手当	180,000
		学会センター業務委託費	640,000
		第10回大会補助	100,000
		秋季シンポジウム会場費	40,000
小計	7,846,800	小計	7,200,760
前年度繰越金	1,293,446	予備費	1,939,486
合計	9,140,246	合計	9,140,246

4. 日本藻類学会ワーク・ショップ報告

昭和61年3月31日(月)日本藻類学会第10回大会終了後より4月2日(水)正午まで筑波大学学群棟などにおいて、淡水産藻類の採集・分類同定法をテーマにワーク・ショップを開催した。高橋永治(神戸大)、南雲保(日本歯科大)、山岸高旺(日本大)、渡辺真之(国立科博)の4氏を講師に迎え、本学会員を中心に下記の34名(手伝いを兼ねた筑波大学の学生・大学院生8名を含む)が参加した。山岸講師による採集の要領と試料整理の講義から始まり、土浦市郊外の穴塚大

池における採集(4月1日午前中)、渡辺講師のフココ等、淡水産藍藻の同定法と培養法の実習まではほぼ計画通りに実施できた。なお講師に予定していた秋山優氏(島根大)は講義・実習の準備をして下さったが公出で出席不能となり、急遽南雲保氏に講師をお願いした。なお本ワーク・ショップの内容の詳細は川井浩史氏(北大・理・植)の参加記(次号掲載予定)を参照したい。

参加者: 鳩貝太郎(市立船橋高)、藤田隆夫(日大習志野高)、菅野徳彦、立沢秀高(以上明大・農)、川

井浩史(北大・理), 長島秀行(東京理大・理), 石川依久子(阪大・教養), 鯉坂哲朗(京大・農), 保坂三継, 高松雅子(以上東京都水道局), 真山茂樹(東学大・生), 神谷 仁(福島大・教育), 鳥海三郎(横浜市立東高), 鳥海孝枝(京浜女大), 奥田一雄(高知大・理), 藤井修平(手塚山短大), 清沢浩志(都立大・理),

大谷修司(国立極地研), 古川一夫, 市村 治, 葛西厚子(以上弘前大・教育), 田中志穂子, 肥塚利江, 山本真規子(以上 奈良女大・理), 松林恒夫(クロレラ工業), 箕島良一(日清製油), 恵良田真由美, 出井雅彦, 佐藤 卓, 河地正伸, 轟 和久, 笠間真弓, 篠塚未夏, 金築祥子(以上筑波大・生) 一申込み順一

日本藻類学会第10回大会会計報告 日本藻類学会大会準備委員会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
大会参加費		プログラム代	19,500
子 約 (82件)	164,000	会 場 使 用 料	24,442
当 日 (43件)	86,000	懇 親 会 会 食 代	224,660
懇 親 会 費		ア ル バ イ ト 代	196,000
子 約 (73件)	146,000	諸 雑 費	55,066
当 日 (19件)	38,000	学 会 返 還 金	54,332
学 会 補 助 金	100,000		
商 品 展 示 代 金 (2 件)	30,000		
寄 付 (1 件)	10,000		
合 計	574,000		574,000

昭和61年4月23日

第10回大会幹事

加 藤 季 夫 ㊞

会 員 移 動

新 入 会

住 所 変 更

退 会

丸山秀佳（北海道），田中静夫（千葉県），鈴木 徹（東京都），藤木昭義（神奈川県），増田清孝（大阪府），畑田太美子（兵庫県），宮本文子（兵庫県），小島勝彦（広島県），津田敏明（広島県），田辺満子（愛媛県），田畑重行（熊本県），藤山和恵（沖縄県）